

平成 30 年度地震・津波防災訓練 (内閣府・延岡市)

実施報告書 (概要版)

宮崎県延岡市について

延岡市（のべおかし）は、宮崎県北部に位置し、周囲を山地・山麓、海面に囲まれており、海岸部では、半島・島礁・入り江が特徴的なリアス海岸を形作っている。また、市内の多数の河川が合流している河口付近では、市街地が発達し、工場も多く立地している。

延岡市地域防災計画によると、県内で被害のあった大地震（M7.0 以上）はこの 100 年間に 10 回発生し、南海地震（S27 年，M8.0）では、日向灘沿岸域で 1.5m の津波高が記録されており、市では、津波避難ビルの指定のほか、特定津波避難困難地域への対策として、津波避難タワーの建設及び避難路の整備を進めてきた。今回の訓練は、市民に対する津波避難時の津波避難施設利用方法の周知と津波防災活動の啓発を目的として実施した。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月18日（日）午前8時30分頃、南海トラフを震源とするマグニチュード9の地震が発生、延岡市では最大震度7を観測。大津波警報が発表され、延岡市沿岸部では最大高さ14mの津波が8時55分に到達予想。
- 実施日時：平成30年11月18日（日）8：30～17：00
- 実施地区：長浜地区（浜砂町1区、長浜町1区、長浜町2区、長浜団地、西長浜北）
- 主催：内閣府、延岡市、延岡市防災フェスタ実行委員会
- 共催：宮崎県
- 参加者数：約1,000名
- 参加機関：自治会（全5地区）、延岡市自主防災組織連絡協議会、延岡市サッカー協会、九州保健福祉大学、（公財）のべおか文化事業団、（株）ヘルストピア延岡、（一社）延岡市医師会、（一財）潤和リハビリテーション振興財団、（社福）真隆会、宮崎県警察延岡警察署、延岡市消防団恒富分団、その他17機関

訓練の評価

延岡市での訓練は、住民や消防・津波避難ビル施設管理者等の実動訓練を中心とした「長浜地区津波避難訓練」、全市民向け展示・体験型イベントの「延岡市防災フェスタ」、東京大学片田敏孝特任教授による講演やパネルディスカッションを行う「防災講演会」を、延岡市長浜地区において実施し、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が訓練に臨んだ。訓練実施後、参加者アンケートの結果分析やふりかえり会議の実施により、今後、地域や施設の避難計画の検討や訓練の参考となるよう、「得られた成果と今後の対策案」を整理した。

【得られた成果】

- 自主防災組織が訓練に先駆けて積極的に活動し、長浜地区住民に対する避難先アンケートの実施や避難者リストの作成等、訓練の実施前から、長浜地区の津波避難への備えを充実させる取組が行えた。
- 津波避難ビル指定施設において、職員配置や誘導要領が的確であり、初動から避難完了まで一連の動きが円滑に実施できていた。
- 津波避難対象地区の避難行動要支援者利用施設で、施設職員や近隣の看護学校生徒らによる避難支援を実施し、避難支援の手順や所要時間、医療に関する知識を持つ人材が共助の一員となる意義を確認できた。

【今後の対策案】

- 避難後の避難者が実施する避難行動要支援者への避難支援要領を検討する。
- 地区での所属班だけでなく、通しの名前順にした名簿を備えるなど、避難確認用名簿に工夫する。
- ライフラインが寸断された場面での通信手段や避難場所としての対応を今後検討していく必要がある。

当日の訓練内容

8:30～9:15 長浜地区津波避難訓練（シェイクアウト訓練、津波避難訓練等）

長浜地区の居住者及び津波避難ビル指定施設やグラウンドの施設管理者・利用者が、地震発生を想定したシェイクアウト訓練をそれぞれの場所で実施した。

その後、消防団による長浜地区内での津波避難の呼びかけや、津波避難ビルの施設管理者による避難誘導訓練を実施した。

延岡市医師会病院等の長浜地区内の3つの医療・福祉施設では、避難行動要支援者に対する上階避難支援を想定し、近隣看護学生らによる避難支援訓練を行った。

清掃工場では、海に出ている人に津波の危険、避難先を知らせる合図として、オレンジフラッグ掲出訓練を行った。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



▼要支援者避難支援訓練



▼オレンジフラッグ掲出訓練



10:00～15:00 防災フェスタ（防災備蓄品・車両・パネル展示、炊き出し等）

例年、延岡市消防本部で開催していた防災フェスタを訓練に合わせて長浜地区の延岡総合文化センター駐車場にて実施した。

市内外から23の防災関連機関が参加し、ブースを出展、パネル展示・車両展示・防災関連物品の展示・販売、地震・豪雨体験、炊き出し等を行った。

▼オープニングセレモニー



▼内閣府ブース



14:00～17:00 防災講演会（講演、パネルディスカッション）

「激甚化する自然災害にどう向かい合うか」をテーマに、防災教育の第一人者である東京大学特任教授の片田敏孝氏による講演を行い、その後、「犠牲者ゼロの延岡市をつくる」をテーマに、延岡市長、自主防災会長その他、平成30年西日本豪雨被災地で活動した陸上自衛隊中隊長を交えパネルディスカッションを実施した。

▼片田敏孝氏による講演



▼パネルディスカッション

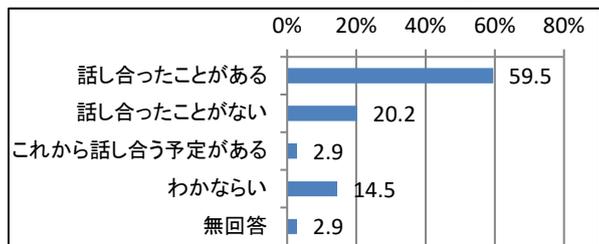


アンケート結果（一部抜粋）

参加した住民の方々に、防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：415人）

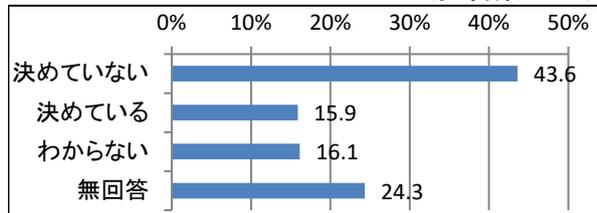
あなたの地域（区）で「災害時の避難について」話し合ったことはありますか。

（回答数=415）



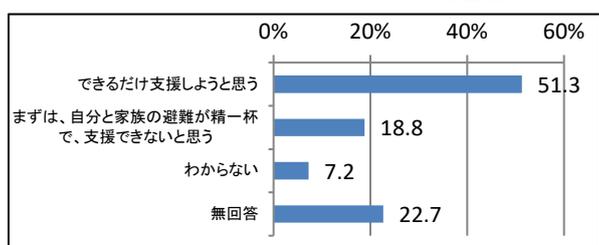
災害が発生した、または発生しそうなとき、ご近所での助け合いの方法を決めていますか。

（回答数=415）



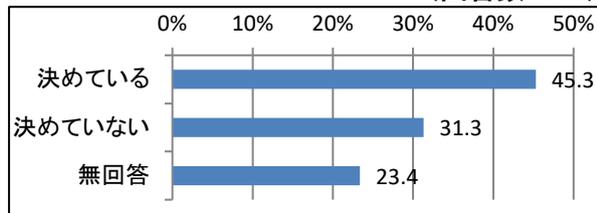
あなたが避難する際に、可能ならば「避難行動要支援者」の避難を支援しようと思いませんか。

（回答数=415）



災害時に、家族同士どのように連絡を取るか、家族の中で決めていますか。

（回答数=415）



自由回答欄

- 避難場所も分かってとても良かったです。
- 子どもたちが経験できてとてもためになりました。
- 避難誘導をする方から声かけして頂き元気づけられてよかったです。
- 本当の時は荷物もあるのでもう少し遅くなるかもしれません。今日は誘導の方がいて安心しました。
- 防災無線の音が小さく家の中でテレビ等をつけていたら聞えるのかなと心配になった。
- （津波避難ビルの）学校が出来てから眺めて通るばかりだったが、初めて中に入れて立派なところで有難うございました。
- 参加者が年齢の高い人が多く若い人の参加が少ないと感じました。地域の若者の参加もお願いしたいですね。
- 初めての参加でした。何度も参加すべきと感じた。

